



地域エネルギーによる野菜栽培を研究を続ける地子立（じしだつる）研究主幹は、品種によって寒冷に対する強さが違いため、気温、室温、地下の温度を測定

しながら野菜の育成を3年間にわたって観測。昨年12月にマイナス26・2の時でも、トンネル内の最低気温はマイナス2・8となり、多重フィルム

た。収量は少し下がりますが、冬の価格を考えると暖房費がかからない分、経営的にもいいと思います。味もよく気温が下がると野菜の状態がどうなっているか、今ではワクワクします」と話します。



大型ハウスは二重のフィルムで覆われています。小さな送風機でフィルム間に24時間外気を送って膨らませていきます。さらに小型のハウスで覆う場合もあり、まるでハウスinハウスです。

近年原油価格の高騰や異常気象により冬場の野菜類の入荷量や価格が不安定となり、冬場であって道内産の野菜類を求め声が強くなっています。9日、真下紀子道議は比布町にある北海道上川農業試験場を訪問。厳冬の冬季に加温しないハウス野菜を栽培する研究を道議団とともに調査しました。

加温なしで冬季にハウスinハウス野菜栽培 厳冬の北海道上川農業試験場で

は凍結してしまいました。結球レタスは凍結してしまいましたが、小松菜は復活することがわかりました。わさび菜やリーフレタスはすくすく育ち、逆に凍れがはいることで食味もよくなっています。地子さんは「結球レタスは腐れが入りましたが、小松菜やわさび菜の復活には驚きまし

と納税の活用や犬猫の引き取り・返還手数料なども運営費にあてられているという事です。

旭川動物愛護センター「あにまある」視察

殺処分ゼロ



旭川市内中心部に位置する施設は、四方を官公庁舎で囲まれ、市民のアクセスがよい環境です。HPには写真とコメントが掲載され、譲渡先を探します。推進員やボランティアの皆さんのシェア

く飼い主を捜します。病気や余命幾ばくもない犬でも、「私でなければ引き取れない」という理由での引き取りもあつたということ。犬の半数は飼い主が見つかりますが、猫の場合は年間数匹。地域猫の不妊手術にも取り組んでいるとのことでした。議員団が来訪した時は犬は1頭のみ、猫は迷い猫のほか、熊本地震で被災した5匹の猫が到着したばかりでしたが、これから飼い主を捜しますと意欲的でした。

と納税の活用や犬猫の引き取り・返還手数料なども運営費にあてられているという事です。



お知らせ

2017年第1回定例道議会が2月24日から開会されます。真下議員は3月3日に代表質問に立つ予定です。

道議会のホームページで中継しますので、ぜひ視聴してください。日程については、事務所に問い合わせください。0166-20-0808



旭川博物館視察

2月9日、日本共産党道議団は旭川市博物館を視察。旭川市議団も同行しました。

旭川市博物館の瀬川拓郎館長から、アイヌの歴史と文化について詳しく



説明していただきました。瀬川館長は「アイヌ学入門」などの著書やアイヌ研究で著名な考古学者です。

縄文から営々と続いたアイヌの豊かな文化や、サハリンやカムチャッカにまで及んだ交易という経済活動



に感嘆の声をあげながら説明に聞き入りました。展示も興味をそそられるものばかりで時間が過ぎるのを忘れてしまいそうでした。

東北6県議員と交流

1月30日、北海道・東北6県議会議員研究交流大会に参加しました。道教委がとりくむ地域産業とタイアップしたキャリア教育について北海道から報告。前大会では北海道・東北広域観光などについて研修しました。真下議員は、分科会で報告された少人数学級実現と免許外教員の解消に向けて国に一緒に要請していくことを提起。いじめ問題などで他県の状況などについて活発に意見交換しました。



林業労働力確保へ質問

北海道では林業労働者数は増加傾向にあるものの、60歳以上の労働者は依然として多く、新規参入者の約2割が1年以内に離職しています。今後、担い手をV字回復できるのかどうかがかかったと言え



る第5期「北海道における林業労働力の確保の促進に関する基本計画」策定に向けて、7日の水産林務委員会で真下議員が質疑しました。

省力化・就労環境改善へ

下草刈りや植林などの造林や、種苗生産の作業は、地形や天候などの影響を受けやすいことに加え、多くの人手を必要とし、省力化が進んでいないなどの厳しい就労環境にあります。植林作業の省力が期待されるコンテナ苗の実用化の検討や、今年度から上川や十勝など全道5地域で下草刈りなどの軽労化に向けた機械を導入、異業種との連携による通年雇用化の促進など、教育関係機関や林業事業者などが参画する地域協議会の取組に支援し、就労環境の改善にとりくむと答弁しました。

長期研修による支援を

国の研修事業と合わせ、03年度に道が創設した「緑の雇用」現場技能者育成推進事業によるフォレストワーカー、フォレストリーダーの育成、「森林整備担い手対策基金」を

活用した高性能林業機械の操作やメンテナンス、路網整備などの短期の研修を国の事業と組み合わせる実施し、技術者の育成を計画的に進めると答えました。

農業高校生などの就業対策を

道内の農業高校のうち3校に森林科学科があります。道教委の調査では、林業関連への就業は3割に止まっていますが、基本計画案には直接的な内容が盛り込まれていません。

道は、授業の一環として道有林における枝打ちなどの体験学習や伐採作業、木材の加工工程の見学会の実施、「林業・木材産業業界セミナー」などの就業相談会やインターシップの実施に向けた説明会の開催など、地域協議会への支援を強化・充実させていくと答えました。

新規の確保対策

道は、若年者はじめ新規就業者の獲得のため、今年度から地域協議会が行うイベントでの高校生の林業体験紹介DVDの活用、フェイスブックでの情報発信、インターシップの実施、相談会を支援。基本計画に基づき、基金を活用して通年雇用化に向けた奨励金の活用や、デザイン性に優れた安全服の購入、屋外用の簡易トイレの整備などに取り組み林業事業体に支援するなど、就労環境の改善にとりくむと答弁しました。

小野寺水産林務部長

は、林業の成長産業化への期待の高まりなどを踏まえた取り組みが重要とのべ、新規就業者の活躍事例や、経営力の向上に取り組む事業者の紹介とCLTや木質バイオマスなど付加価値を高めた木材利用など、発信力を強化し、林業の今日的経営や展望を前面に出して林業労働者の確保・育成にとりくむと答えました。

2015年度の林業労働実態調査

	林業労働者数	造林	種苗
2015年度	4,254人	1,735人	355人
(2005年度比)	(? 469人)	(? 137人)	(? 144人)